

## ◇ 総合的な学習の時間における評価の在り方

### 【評価内容】

- (1) **学校として身に付けたい資質や能力が児童生徒、保護者にも分かる評価であること**
  - ・ 学習指導要領に示された二つのねらい（①自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、②学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えるようにすること）などを踏まえる。
  - ・ 学校の教育目標や児童生徒の実態から学校として身に付けさせたい資質や能力を明らかにする。
  - ・ 発達段階を考慮して、身に付けさせたい資質や能力の系統性を明らかにする。
  - ・ 児童生徒自身が自己評価できるよう、評価項目の言葉を、学年、単元指導計画、本時の学習過程の段階で具体化する。
  - ・ 指導要録では、各学校において定めた具体的な目標、内容に基づき、観点を定めて評価を行う。
- (2) **児童生徒が学習の中で学んだり、身に付けたりした内容を振り返る評価であること**
  - ・ 発見・驚き、成長（見方、考え方、感じ方、技能・表現、知識・理解）など、児童生徒の意識や技能、考え方等の高まりや自己の学び方を振り返ることができるようにする。

### 【評価方法】

- (1) **児童生徒のよさを引き出す評価をすること**
  - ・ 発表会、作品等、単元の終末だけでなく、学習過程の全般で継続的に評価をする。
  - ・ プリントに○×を付けて意識化を図るだけでなく、児童生徒の姿から価値ある姿を具体的に引き出して評価する。
  - ・ 意図的な教師の言葉かけ、プリントへの朱書き（色別の付箋を使用等）を行う。
  - ・ 児童生徒が学習過程で使用したプリント、資料、作品からよさを見付け、児童生徒に伝える評価にする。
- (2) **児童生徒自身が自分のよさに気付く評価をすること**
  - ・ 発見・驚き、成長（見方、考え方、感じ方、技能・表現、知識・理解）など、児童生徒の意識や技能、考え方等の高まりや自己の学び方を振り返って記録することができるようにする。
  - ・ 児童生徒に身に付けさせたい力を意識、自覚できるようにする。（記号の意味、記述の仕方等）
  - ・ 児童生徒が学習過程を振り返り、以前の自分と比べて評価できるようにする。
  - ・ 児童生徒が追究の見通しをもてるよう、活動における相手意識（誰に対して）、目的意識（何のために）、終末の活動内容（発表会、報告会等）を記録できるようにする。
- (3) **児童生徒のよさを多面的に評価できるようにすること**
  - ・ 複数の教師、地域の人、保護者などが評価できるようにする。
  - ・ 自己評価、相互評価等を組み合わせて評価できるようにする。

### 【教師が評価するために持つもの】（記録カード）

- ・ 学校として身に付けさせたい資質や能力等評価の観点を位置付けた記録表
- ・ 児童生徒の学習課題等取組が分かる一覧表
- ・ 学習状況の記録表、座席表（記号や文章）

### 【児童生徒が自分自身の成長を評価する対象としてもつもの】（ポートフォリオ）

- ・ 自己評価表（自己評価と相互評価ができるもの）
- ・ ポートフォリオ（プリント、自分の活動の記録、資料、作品の収集）
  - ⇒ 「次の活動に生かすものとして」「これからの学習に役立つものとして」
  - 「その子の可能性を見付け、よさを伸ばすものとして」